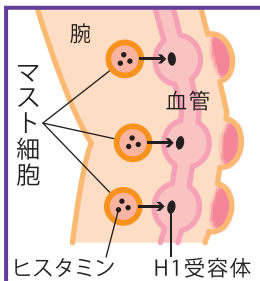


じんましんが治りません。治療法を知りたいです
原因が不明のことも 抗ヒスタミン剤を処方します
立川皮膚科クリニック
www.tachikawa-derma.com

じんましの発症のしくみ



皮膚の一部が赤く盛り上がり、激しいかゆみがある「じんましん」。その原因と治療法を「立川皮膚科クリニック」の伊東秀記先生に聞きました。

「ほとんどのじんましん」は、突然現れ数時間か1日程度で症状がおさまるのが特徴ですが、患者の約50%は3カ月から1年にわたって発症を繰り返すことがわかっています。

「原因は？」
「何らかの刺激により、マスト細胞内に蓄えられているホルモン「ヒスタミン」が放出されます。ヒスタミンはヒスタミンH1受容体と結合し、血管を拡張させることにより、管を拡張させることにより、原因ではなく、冷たい床や風に触れることが刺激となりやすくなります。原因が多岐にわたったり、特定が困難なものを「突発性じんましん」といいます」

「治療法は？」
「抗ヒスタミン剤の内服薬を処方します。自分の判断でかゆみ止めなどぬり薬を使うのは禁物です。皮膚科の医師に診断を受けましょう」

「冷、日光などが考えられます。ちなみに「寒冷じんましん」は冬の寒さが原因で、冷たい床に当たると発症することがあります。」



院長：伊東秀記
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、東京慈恵会医科大学医学部卒業、東京慈恵会医科大学皮膚科非常勤講師

問い合わせ
☎042-843-1377
JR「立川」駅南口徒歩2分



休診日：日曜、祝日

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
9:30～ 13:30	○	○	○	○	12:30まで 受け付け	○
15:00～ 19:30	○	○	○	○	18:30まで 受け付け	17:30まで 受け付け

2016年1月23日付 「リビング多摩」に掲載されました